

突撃!「極意」伝承道場!!

横山 享司先生(松本市立安曇小学校)

社会科・授業づくり



11月18日(金)に売木中学校で行われた横山享司先生の「極意」伝承道場に参加させていただきました。この日は、受講者の田中敦広先生の社会科授業を参観させていただき、授業づくりについて横山先生からご指導をいただきました。

授業は、江戸時代の幕末の単元で、「江戸幕府が対等な条約を結べなかったのはしかたなかったのか?」について生徒が資料などの根拠をもとに考える授業でした。2年生の子どもたちは資料を活用し、自分の考えをもち、友だちと対話しながら思考を深めていました。

今回は指導者と受講者のマンツーマンの道場でした。田中先生は、授業前に板書計画や指名計画、授業展開、子どもの考えのとらえ方、資料の提示等について横山先生からアドバイスをいただいていた。そして授業後は、すぐに二人で授業を振り返りました。横

山先生はまず子どもたちの取組をほめ、田中先生の振り返りや反省をもとに、単元の指導内容や授業中の発問、生徒の発言の全体へのつなぎ方、授業をしていて困ったこと等について、自分ならどうしたか、理由とともに指導をされました。

学校では一人教科担任である田中先生にとっては学ぶべきことが多い「極意」伝承道場であると感じました。また、田中先生は、子どもたちからの信頼も高く、「根拠をもって発言してほしい」という思いから授業で使う資料の豊富さは見事でした。

横山先生の指導の中に「子どもが本当に話し合いたいことは何かを教師は捉え、それが学習課題となる」という言葉があり、社会科だけでなくすべての教科に通じる内容であると思いました。

指導者の横山先生は、「**授業者が徹底した素材研究をすることで『素材の本質』を導き出し、『子ども理解』をした上で授業構築をすることで、児童生徒が対話的な追究をする姿を目の当たりにすることができません**」と受講の先生方にエールを送っています。横山先生の道場は、「子どもが本気で対話しながら、社会事象の本質にせまる授業づくりを考える」道場です。横山先生の「若い先生方は、熱意はあるけどどうやったらいいかわからないことがある」の言葉の通り、社会科の授業のあり方を受講者にしっかり伝えています。



受講者の感想から

○授業作りに対しての姿勢、また教材研究で横山先生が大切にしておられる「**素材の本質**」について考え方を学びました。歴史では、ある局面で矛盾を乗り越えて選択してきた人々がいることを、地理では、産業の矛盾を乗り越えて選択してきた人々がいることを考え、この本質を見つけることが教材研究には大切だと学びました。

歴史の単元の中では、年表を使って見通しをもたせる意味を、単元を終えた今になって気づきました。「どのような」と見通しをもってから、細かい「なぜ」を追求していき、最後に素材の本質にたどり着き、自分の考えを根拠をもって話し合い、深めるという歴史分野の授業の難しさを感じてきましたが、一つの大きな単元展開のフォーマットを示して頂けました。

最後となりますが、学校現場は忙しく、なかなか教材研究の時間を確保することはできないなと感じています。そうした中で、今年度、横山先生から何度も授業論を教えて頂くことができたことは、本当にありがたかったと感じています。自分の財産になるよう、今後の様々な面で活かしていきたいと思えます。